

# 令和4年度中南米・北米移住者子弟研修受入事業

## (結果概要)

福島県生活環境部国際課

### 1 目的

福島から中南米・北米に移住した者の子弟が、県内での研修や交流を通じて自らのルーツや本県への理解を深めることにより、本県と母国の架け橋として、将来、母国の福島県人会の中核を担い活躍できる人材を育成する。

また、滞在期間中、本県の魅力や東日本大震災及び原発事故からの復興状況を実際に見てもらい、帰国後に母国において積極的かつ正確な情報発信を行ってもらう。

### 2 実施日

令和5年1月25日(水)～2月3日(金) 10日間

### 3 参加者

(1) 研修生5名(ブラジル1名、アルゼンチン1名、米国3名)

- ・ブラジル福島県人会 1名
- ・在亜福島県人会 1名
- ・ホノルル福島県人会 1名
- ・シアトル福島県人会 1名
- ・南加福島県人会 1名

(2) 同行者 ※一部日程のみ

- ・県費留学生 2名(ブラジル1名、ペルー1名)
- ・県国際課職員

### 4 研修内容

- (1) 県内視察(復興状況視察、一般視察)
- (2) 知事表敬/福島県海外移住家族会会長表敬
- (3) 日本文化体験
- (4) ホームステイ
- (5) その他

## 5 研修日程

日程	内容	宿泊先
1月25日(水)	成田空港着	(神奈川県横浜市)
1月26日(木)	海外移住資料館 横浜散策	(郡山市)
1月27日(金)	福島の実況説明 福島県農業総合センター 大七酒造 うちわ漉き体験(道の駅安達(和紙伝承館))	(ホームステイ)
1月28日(土)	ホームステイ	(ホームステイ)
1月29日(日)	ホームステイ	(福島市)
1月30日(月)	わかさぎ釣り 昼食(喜多方ラーメン) 只見線	(会津若松市)
1月31日(火)	鶴ヶ城 さざえ堂 会津藩校日新館 野口英世記念館	(福島市)
2月1日(水)	福島県海外移住家族会会長表敬 意見交換会 知事表敬 浜焼き(松川浦)	(相馬市)
2月2日(木)	福島水素エネルギー研究フィールド 東日本大震災・原子力災害伝承館 震災遺構浪江町立請戸小学校 東日本国際大学	(いわき市)
2月3日(金)	いちご狩り 成田空港より離日	

## 研修 1 日目 1 月 2 5 日 (水)

### ■ 成田空港 (入国)

- ・研修生が各国から成田空港に到着した。
- ・長距離の飛行機での移動や時差の影響で疲れが見えたものの、研修生たちはすぐに打ち解け、これからの研修を楽しみにしている様子うかがえた。



成田空港に到着

## 研修 2 日目 1 月 2 6 日 (木)

### ■ 海外移住者資料館 (JICA横浜)

- ・日本人の海外移住の歴史や移住者とその子孫である日系人について学んだ。
- ・研修生は展示物や資料に興味深そうに見ながら、自らのルーツについて理解を深めた。



海外移住の歴史や自らのルーツを学ぶ

## ■ 横浜散策

- ・快晴で春を感じさせる陽気の中、横浜を散策。
- ・カップヌードルミュージアムでマイカップヌードル作りを体験。



横浜ランドマークタワーをバックに記念撮影



思い思いのマイカップヌードルを作成

研修 3 日目      1 月 2 7 日 ( 金 )

## ■ 福島県の現況説明(福島県農業総合センター)

- ・県の国際交流員から福島県の概要について英語で説明。
- ・食を始めとする福島県の魅力や震災及び原発事故からの復興の状況について学んだ。



県国際交流員による本県の現況説明

## ■ 福島県農業総合センター

- ・震災及び原発事故後の放射性物質の除去・低減に対応する取組や、食の安全・安心を確保するためのモニタリング検査の状況等について説明を受けた。
- ・お米(「天のつぶ」及び「福、笑い」)の食べ比べや、いちごの新しい県オリジナル品種「ゆうやけベリー」の試食も行い、研修生は、お米の美味しさやいちごの甘さに驚いていた。



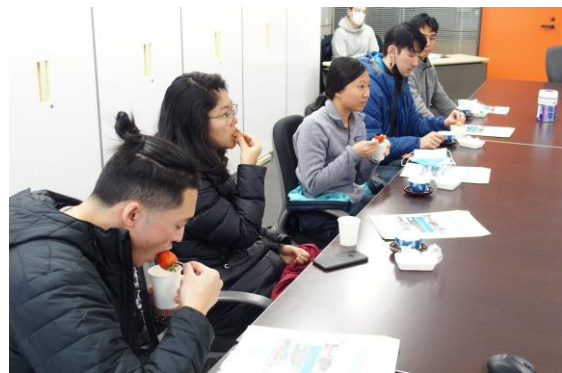
農業総合センター所長による歓迎あいさつ



モニタリング検査の見学



お米の食べ比べ



オリジナル品種「ゆうやけベリー」試食

## ■ 大七酒造

- ・大七酒造を訪問し、酒の造り方や施設の説明を受けた。
- ・日本酒の試飲(成人のみ)も行い、お酒の美味しさや種類毎の味の違いに驚いていた。
- ・見学後は好みの日本酒などを購入していた。



入口で記念撮影



日本酒の試飲

## ■道の駅安達 二本松市和紙伝承館(うちわ漉き体験)

- ・1000年以上もの歴史がある上川崎和紙の手漉き体験を行った。
- ・型に和紙の材料を流し込み形を作り、その後、好きな模様を描きオリジナルうちわを作成した。



和紙の原料を流し込み



模様を描く

研修4日目、5日目 1月28日(土)、29日(日)

## ■ホームステイ

- ・親戚宅やボランティア宅でホームステイ。
- ・ホストファミリーと一緒に様々な日本文化に触れる経験をした。

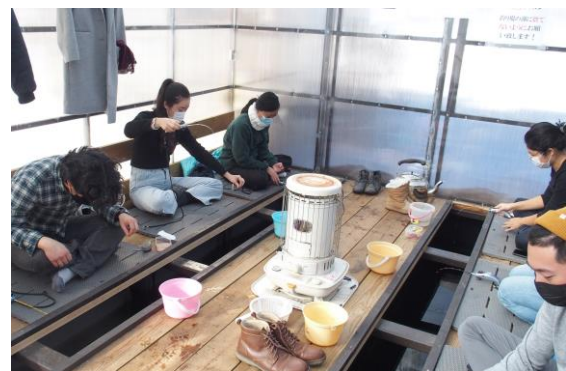
研修6日目 1月30日(月)

## ■わかさぎ釣り

- ・北塩原村でわかさぎ釣り体験を行った。
- ・珍しい氷上での釣り体験に楽しそうに取り組み、釣ったわかさぎは唐揚げにして食べた。



水で覆われた桧原湖



ビニールハウスの中で黙々と釣る

## ■只見線

- ・2022年10月1日に全線運転再開した只見線に乗車した。
- ・列車に揺られながら、雪で覆われた会津の原風景の景色を楽しんだ。



乗車の様子

研修7日目 1月31日(火)

## ■鶴ヶ城

- ・良い天気の中、雪化粧した鶴ヶ城を見学。
- ・城内で、デジタルアート「鶴ヶ城 光の歴史絵巻」を観覧した。



鶴ヶ城をバックに記念撮影



デジタルアートを眺める

## ■さざえ堂

- ・国の重要文化財「さざえ堂」を見学。
- ・世界的にも珍しい螺旋通路の建築物を自分の足で確かめていた。



歴史ある建物を興味深そうに眺める



さざえ堂内部

## ■会津藩校日新館

- ・日新館では、江戸時代の学校の様子や学習内容、授業風景などの説明を受けながら見学した。
- ・また、日本文化体験として、弓道を体験。



当時の様子の説明を受ける



初めての弓道体験

## ■野口英世記念館

- ・記念館についての概要を聞いた後、野口英世博士の生家などを見学。
- ・南米や北米で活動した野口博士の生い立ちや功績について学んだ。



記念館についての説明



野口博士の生家を見学

研修 8 日目      2 月 1 日（水）

## ■福島県海外移住家族会会長表敬

- ・佐藤憲保福島県海外移住家族会会長を表敬訪問し、福島県を訪れた感想等について懇談した。
- ・会長からは、福島の魅力を経験し、帰国後に周りの人へ発信して欲しいとの発言があった。



佐藤会長との懇談



会長との記念写真



## ■意見交換会

- ・県庁において国際課職員と意見交換会を実施。
- ・雪の景色や、農業総合センターで食べたお米やいちごの美味しさ、原発事故後の食品の安全性確保に向けた取組を学んだことが印象に残ったとの声が多かった。
- ・帰国後は、SNSも活用しながら周りの人に福島の魅力や現状を発信したいと意気込みを語った。



意見交換会の様子

## ■知事表敬

- ・内堀雅雄知事を表敬訪問し、研修生から研修で印象に残ったことなどを紹介した。
- ・知事からは、歓迎の言葉や、研修成果を今後の活動に活かしてほしいとの期待の言葉があった。



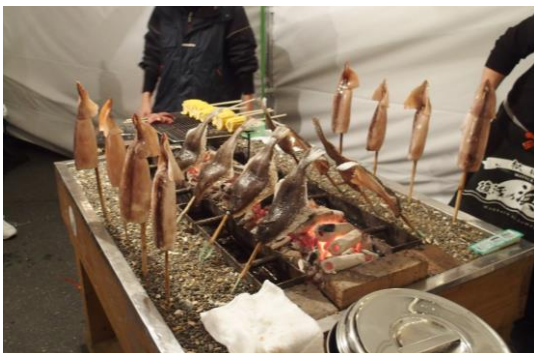
表敬の様子



知事との記念写真

## ■浜焼き(松川浦)

- ・松川浦を訪問し、浜焼きを体験した。
- ・新鮮な魚やイカなどの魚介類を満喫し、福島の食の美味しさに改めて感動していた。



新鮮な魚介類



楽しい団らんの様子

研修 9 日目      2 月 2 日（木）

### ■福島水素エネルギー研究フィールド

- ・再生可能エネルギーを利用した世界最大級の水素エネルギーシステムを備える福島水素エネルギー研究フィールドを訪問し、同フィールドの取組や施設、設備に関する説明を聞いた。



担当者から施設や設備の説明を受ける

### ■東日本大震災・原子力災害伝承館

- ・未曾有の複合災害が発生した当時の状況や県民の思いを展示物等を通じて学ぶとともに、原子力災害に伴う住民避難の経過や除染による環境回復の取組等への理解を深めた。



担当者から展示物の説明を受ける



津波の力で大きく変形した消防車を見つめる

## ■震災遺構浪江町立請戸小学校

- ・震災遺構として2021年10月に一般公開が開始された請戸小学校を訪問し、津波の被害に遭った震災当時の姿がそのまま保存されている校舎を見学するとともに、担当者から当時の様子などの説明を聞いた。



校舎内の見学の様子

## ■東日本国際大学

- ・東日本国際大学で日本語を勉強している留学生たちとの交流会を行った。
- ・自らの国の紹介やゲームなどを通じて友好を深めた。



交流会の様子



東日本国際大学の留学生たちとの記念写真

## 研修 10日目 2月3日（金）

### ■いちご狩り

- ・最終日はいわき市内でいちご狩り体験を行った。
- ・研修も10日目ということもあり研修生に疲れが見えたが、美味しいいちごを頬張り元気を取り戻していた。



いちご狩りの様子

### ■成田空港(帰国)

- ・研修生たちはバスの中で10日間行動を共にした仲間たちと最後の別れを惜しみ、成田空港の第1・第2ターミナルから母国へと戻っていった。



成田空港前で最後の記念写真

## 結びに

10日間の研修を通じて、研修生が福島県の魅力や現状について理解を深めるとともに、同じ福島県にルーツを持つ在外県人会の若手同士が交流する絶好の機会となり、研修生の間でもかけがえのない絆が生まれた。

研修生には、今回の研修を通じて自分たちが実際に福島県へ足を運び、自ら見て、聞いて、感じたことを母国に戻り積極的に発信するとともに、現地県人会と本県との架け橋として今後も活躍していくことを期待したい。